

今回は「こみせ」で有名な黒石の歴史を、街並みを中心に紹介したい。黒石の中心街は、歴史的財産が豊富なからである。

写真①は昭和戦前・戦中

919 (大正8)

年(大正8)年にでき



黒石町の市ノ町通り



2

- ① 昭和戦前・戦中期の市ノ町通り (県史編さんグループ所蔵)。
 ② 市ノ町通り近影。2005 (平成17) 年6月24日、中國美穂撮影。

黒石の魅力

中國 裕

(文化振興課県史編さんグループ)

た尾上銀行 黒石支店である。後に

第五十九銀行 (現青森銀行) に統合されるが、建物自体は戦後まで残った。戦後も市ノ町通りは官庁街として栄えた。銀座通りとも称され、黒石町の中心街として活気を見せていたのである。現在の市役所も市ノ町にある。

デパートも、2005年5月31日に閉店した。市民の多くは、郊外の大鰐浪岡線沿いに、車で買物に出かけている。車時代の現在、黒石市の中心街は空洞化しつつある (写真②)。

しかし黒石市の街並みには一つの個性と特色がある。高橋家住宅は国の重要文化財であり、2003年には第3消防部の屯所が県重宝に指定された。有名な中町の「こみせ」街も、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。そこには松の木が建物を貫いている。「松の湯」もある。

このほかにも、明治期の政治家加藤宇兵衛が作った沢成庭園、黒石津軽家の生家でもある茅葺きの武家屋敷、近代洋風建築のマルチ薬局や上原呉服店など、風情ある建物が多い。

商店にも魅力あるものが多い。例えば元町には「こみせ」を擁した佐藤醸造店がある。70年営業を続けて

いるラーメン屋の長崎屋、土蔵を改築した山田肥料店、文字通り「蔵」と名付けられた喫茶店など、個性的な店が多い。

郊外にも魅力がたくさんある。もっとも有名なのが黒石温泉郷だろう。温湯・板留・落合など、名湯が集まっている。

紅葉が見事な黒森山や淨仙寺も訪ねてみたいが、その付近にある「青少年の森の家」と名付けられた洋館を紹介したい。この建物は南津軽郡役所の面影を残す建物だからである。

郡役所自体は1878 (明治11) 年に、現在の産業会館の位置に建てられ、1926 (大正15) 年に廃止された。しかし建物自体は黒石町役場や市役所庁舎として活用された。

1968 (昭和43) 年、現庁舎に市役所が移り、旧郡役所は取り壊された。その建物の一部が、黒森山に移築されたのである。